



しました。

この世界では超人気と噂のニューハーフ美女にクイズです。いやいや、もう誰がなんだって美女美女！

プロポーシオンは並みの女性のそれとは大違い！ボインでキュッでボン！わかりますか？視線は完全に奪われてしまい固まってしまいました。

いやいや私でなく観客のみんなが……！ここバンコクの夜は「カリプソ・ショー」で決まり！誰がナンつたって絶対にベスト・1さ！

そう言えば、ガイドの文ちゃんが

言っていたっけ！「みなさんはゼツタイもう一度ここに来たくなるわヨ！」そんな訳で、も一度行きたい♪はないちもんめ♪

ショーが終わり会場の外に出ると

「オカマ」のお姉さん達がお見送りに勢揃いしています。100バーツのお札を差し出し、皆さんは思い思いの美女とツーショット。国際スターになった私の所へは押すな押すなと

「オカマ」のお姉さん達が群れ寄ってきました。外で見る「オカマ」のお姉さん達は、あんまりなので敬遠

しました。でも素敵なお兄さん？もいて、つい写真に収まってしまいました。いや〜よかったですね。

ホテルの帰路につく車内は興奮覚めやらず大賑わいでした。

今日は「オカマ」のお姉さん達の夢を見て、寝苦しい？バンコクの夜は更けていきます。

4日目 (2000.11.25)

昨日の興奮が覚めないまま朝を迎えました。今日はバンコクの市内観光でスケジュールは満杯、昨日同様の朝食が終わるとツアー開始です。

バスは市内を走り抜け、チャオプ

ラヤ川の西岸のほとりに立つワット・アルン「暁の寺院」の見学です。暁の寺院見学のあと私達は寺院脇のほとりから水上マーケットの見学に向かいます。

幅300mはあると思われる川向こうにはエメラルド寺院や王宮が建ち並び、茶色に濁った川には屋形船に似た流線型のボートが何艘も行き交っています。ボートの後部には操舵の人が舵を取り、ボートを操っています。エンジン音が鳴り響き、大きな水飛沫を上げながらボートが行き交います。



ワット・アルン「暁の寺院」

私達は、30人は乗れそうな中型のボートに乗船しました。ボートに備え付けられたエンジンは、廃車になった自動車のエンジンが取り付けられているようです。川は行き交うボートの水を切りながら進む波が幾重にも交差します。

ボートは水上マーケットを目指し、川の支流へと入っていきます。川岸には写真で見た事のあるバンコクの風景が飛び込んできて、川岸の水上生活の臭いが届いてきそうです。水上生活をするハウス・ボートはいたる所に留まっています。ここバンコクでは水上での生活が今も続いているのです。板とトタンを張り巡らした古い船上には、洗濯物が風に揺れ生活の一部が垣間見えます。午前中から気温は上がり、早い昼寝をしている人も見えます。バナナの木や椰子の木が点在している中をボートはさらに奥へ進んで行きます。

エンジン音が急に軽くなってボートのスピードが落ちると、何処からともなく小さなボートが近づいてきた。

いかにも行商風の中年の女性と若い娘が乗っている。ボートには「果物の王様」ドリアンが積み込まれている。ホテルへの持込が出来ないド

リアンだけに、ここで賞味しようと思
意見がまとまりリクエストが始まっ
た。



水上マーケットの見学を目指します

勿論、私たちも2人分ゲット!

1カットが日本円で200円程度。
小さくカットされたドリアンからナ
ントもいえない甘い香りが誘って
くる。柔らかい果肉のドリアンを初
めて口にするが、慣れないせいであ
まり美味しい味とはいえない。ひと
口食べて顔をしかめる人もいる。や
は、庶民の味には程遠い果物のよう
だ。

水上での試食会を終えると、私達
を乗せたボートは川をさらに狭くなっ
た水路を走り、古い船着場に横付け
された。



ボートを降りると船着場には民芸
品を売っている。「いらっしやいま
せ」と片言の日本語が聞こえてくる。
古びた店内には手作りの品々や民芸
品が所狭しと並んでいる。先程まで
の風を切って進む船上とは違い、薄
暗い店内は蒸しかえっている。暑い。
古びた木の床がきしむ音を聞きなが
ら店内を散策する。

籐らしき手作りのうちわを買い、
外に出ると今日もバンコクは相変わ
らず暑い。つかの間の休息時間が過
ぎると、再び船に戻り次の目的地へ。



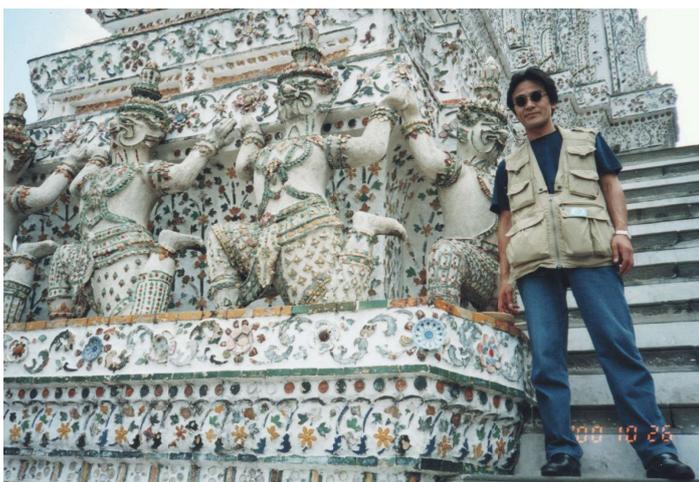
王宮・エメラルド寺院

水路は徐々に広がり元の川口まで
戻って来たようだ。

船着場からバスに乗り換え「王宮・
エメラルド寺院」へと向かう。

外は相変わらず暑い。35度はあ
るだろう。汗が滴り落ちる。バスか
ら降りると煌びやかな世界が広がり、
目前には黄金に輝く仏塔や絢爛豪華
な建物が並んでいる。

約1時間あまり園内の散策を楽し
んだ後、記念写真に収まることになっ
た。全員集合の合間に、近くでは何



やら騒いでいて、年配の欧米人らし
き女性が頭を抱えている。旅行中の
客を狙ったスリに遭ったらしい。な
んでも集合写真の際に同じグループ
の中に入り、写真撮影に夢中になっ
ている最エメラルド寺院中にスリに
遭ってしまったとか。周囲を見渡す
と以外に皆さん無用心なスタイルで
ある。国内旅行中くらいなの、いか
にも気軽な格好であるから狙われても
無理はない。

ここは異国の地なのです！私を見
なさい！ほら、こんなに用心してい
る！と自慢の装いで優越感に浸りま
した。それまで肩から無造作に掛け



ていたバックなどは、この事件以来皆さん両手で抱えたり、しっかりと抱いたり周囲が気になっている様子。まあ、初めての海外旅行を経験する方にとっては止む得ません。私の場合の本の読みすぎで、用心×用心・用心が一番！ 気をつける事に越したことはありません。幸い私達のグループは皆さん旅慣れた方が多いと見えてリラククスなさっています。ともあれひと安心です。

王宮・エメラルド寺院の観光を最終にお決まりのショッピング。暑さと疲労で空腹感もかなり上昇。迷路のような所を抜けてやっと飲茶の昼食です。昼食を終えると、いよいよバンクを後にします。バスに乗り込むと一路空港へ。

ようやく慣れてきた出国手続きの後、機内に入ると私達は中央の席に着きました。

16時05分発CX712便は重い機体を香港に向け動き出します。機内食を終えると旅の疲れが心地よい眠りを誘います。窓の外は少しづつ日が落ちて夕闇がすぐそこまで来ているようです。

目が醒めると外は暗く、そろそろ香港に到着の時刻です。

窓の外には、香港の明かりが見え始めているようです。シートベルト着用のサインと共に機体は着陸体制に入り、4日振りに香港に戻ってきました。外は少し冷たい風が吹いています。

出国手続きを終えるもう夜の8時を回っています。一行はバスに乗り込むと、現地ガイドの周さんの案内でこのままビクトリアピークへ「100万ドルの夜景鑑賞」に向かいましたが、やや天候が悪く、「50万ドルの夜景」？になってしまい、ちよっ



ビクトリアピーク「50万ドルの夜景」？

とがっかりでした。

ビクトリアピークの夜景鑑賞を終えようやく今日の宿泊のホテル「REGA RIVERSIDE HOTEL」にチェックインです。

ホテルに入ると日本人の若者で何やら賑わっています。今売れっ子のTOKIOのコンサートがこちらであり、追っかけのツアーとか。おかげで私達の宿泊する部屋が占領され、予定していた部屋がなくなりグレードアップされることになったのは不幸中の幸いでした。良い部屋に泊まることが出来たのは君等のおかげ！

ありがとう！（DXコースのメンバーには内緒？）

時間は11時を過ぎていますが、夕食から時間が経ち空腹で眠れそうにありません。ホテル近くに美味しい中華のお店があることを聞いていた私達は、早速ホテルを抜け出しました。

夜の11時を回っているというのに、ホテル周辺はまだ宵の口です。ネオンが空腹で眠れない私達を誘います。目指したお店の外には、早々と私達より早く来た同じツアーのメンバーが何やら美味しそうにパクついていて、美味しそうな中華の香り





が店の外まで漂ってきます。広くない店内では5〜6人の客が食事中です。

読めないメニューを一生懸命に解説する事にして私達も早速店内に入ると、さらに同じツアーのメンバーである福岡から来たという年配の男性二人組みが、前代未聞の料理の値引き交渉を行っている最中です。

商談は決裂したことは言うまでもありませんが、折角ここまで来て何も食べない訳には腹の虫がおさまりません。結局はラーメンで落ち着い



た様です。このやり取りを見ていたメンバーは一同に大爆笑です。

私達も中華麺とビールをオーダーし店外のテーブルで料理を待つことにしました。傍のテーブルにいた同じツアーのメンバーから料理の差し入れがあり、食べてみると噂通り美味い。つい先程の出来事を皆で思い出しては、また話題は尽きることはありません。やっと料理が届き私達も空腹を満たしていきます。

ホテルに戻ると、先ほどの追っかけツアーの若者たちがたむろっ

ます。ようやくあわただしかった一日が終わり、シャワーの後はベッドに入ると疲れもピークに達し、お・や・すみ・なき・い…。

6日目 (2000. 10. 27)

いよいよツアー最終日の朝が駆け足でやってきました。5時50分にモーニングコールです。まだ朝が空けきっていない中、6時40分にはホテルを出発し朝食に向かいます。

DXコースのメンバーと合流し繁華街とおぼしき所で下車。ガイドの



周さんの先導で繁華街の中の狭い通路を練り歩き「鴻星海鮮酒家」に到着、今朝の食卓に辿り着きました。階段を上がると円卓が私達を待ちわびていました。席に着くとすぐに中華粥が運ばれてきました。ココ数日では一番早い起床時間に、お腹の虫はすでに泣き喚いています。

一気に食事を終えると、ツアー最後の香港観光が始まりました。香港の町に少しづつ活気が出てくる中、まずは九龍半島の観光です。昨日バスで上ったビクトリアピークから眺めていた場所に今立っていることに



なりません。旧九龍駅時計台から今度はビクトリアピークを眺める格好です。
もとは九龍火車站だった赤レンガ造りの建物で、当時はロンドン行大陸横断鉄道の起点、終着点として知られていたが、新駅が移転し時計塔が残るだけになった。旧九龍駅時計台からは朝靄がうすくかかった中を船が行き交う光景が見えます。散策を終えるとバスは黄大仙寺院に向かいました。

黄大仙寺院はもともと中国の広州黄沙にあったが1915年香港に移されました。現在の寺院は1973年に再建され、金色の屋根に朱色の円柱という道教の寺院です。

多くの参拝者がひしめく本堂前には大きな線香立てが置かれ、40〜50cmほどの長い線香がもくもくと煙を上げています。参道に並ぶ占い師たちが、引き当てたおみくじの解説をしてくれるのがなかなかユーモラスでした。

黄大仙寺院の見物を終え最後のショッピング先へ向かいます。ショッピングが終わると日本人が経営しているらしい店でのいなりと麵の随分あっさりした昼食を済ませ、後は日本に向けての最後の出国手続きが待つのみです。

私達を乗せたバスは香港国際空港をめざします。長かった旅行もいよいよ終わりを告げようとしています。

香港国際空港に着くと出国手続きの列に並び、ようやく慣れた？手続きを済ませると空港内で香港ドルの両替です。搭乗ゲートに着くまでに「EXCHANGE」の案内を見つけると残った香港ドルを日本円に両替しました。



搭乗ゲートにはメンバーがすでに到着しています。搭乗のアナウンスが始まったようで、人の動きがあわただしくなりました。搭乗口のドアが開き搭乗が始まりました。

14時20分発福岡行きCX-511便は、ほぼ満席の重い機体をゆっくりとメイン滑走路に向け移動します。エンジン全開と同時に機体はフルスピードで動き出しました。そして離陸。

体に強い圧力がかかり一気に高度を上げていきます。水平飛行に移り、

シートベルト着用のサインが消えました。疲れと共に眠りがおそつきました。福岡までゆっくり眠ることにしよう。

台北を経由して福岡へは20時20分着の予定です。窓の外は夜の帳が下りて飛行は順調に続いています。眠りから覚めるとそろそろ到着の時刻のようです。飛行機は福岡上空に入り、市内の明かりが窓いっぱい広がってきました。

シートベルト着用のサインが点滅し、機体は着陸体制に入りました。機内の正面には着陸の様子が映し出されています。

車輪が滑走路に触れるズシンとした感触が体に伝わってきた。着陸。無事、福岡に着いた。

福岡では入国の手続きが待っています。いよいよ最後の手続きです。入国手続きが終わると一緒に旅したポストンバッグを受取り到着ゲートへ。到着ゲートには懐かしい？友人の顔！長いようで短かった旅行が今ようやく終わった。



END